

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ヒトツナ大袋教室 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33 (回答者数)	24
○従業者評価実施期間	2026年1月15日		2026年1月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の職員が共感的に支援を行うことができる。	・お子様の幸せのためにはご家族様が幸せであることが不可欠だという前提を共有し、お子様の支援だけではなく、保護者様の気持ちに寄り添うための研修機会も設けている。	・引き続き保護者様への支援も重要な役割であることを肝に銘じながら、包括的な支援を展開していく。
2	子どもが安心感をもって通所できている。	・活動の見通しを伝える環境設定や個別の配慮を行い、子どもが安心して過ごせる環境づくりに努めている。 ・職員の関わりもお子様にとっては環境であることを意識し、関わり方など細やかな点も共有し統一的な支援ができるように努めている。	・子ども一人ひとりの特性に応じた環境調整や安心できる関わり方をさらに工夫し、継続して安心して通所できる場を整えていく。
3	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されている。	・日々の記録や職員間のケース共有を通して子どもの理解を深め、客観的な視点を踏まえた支援計画の作成につなげている。	・保護者との情報共有やモニタリングを通してニーズや課題を適切に把握し、支援計画へ反映していく体制を強化する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会	・保育所や認定こども園、幼稚園等との交流については、各機関の運営方針や日程調整、安全管理面等の理由から、事業所単独で機会を設定することが難しい状況がある。	・地域の関係機関や公共施設等との連携の可能性を検討し、無理のない範囲で地域活動や交流機会の確保について検討を進めていく。
2	家族支援・きょうだい支援の提供が十分行えていない	・家族支援やきょうだい支援については、日常的な送迎時の相談対応等を行っているものの、時間的・人的体制の制約により、計画的・継続的な支援機会の設定が十分に行えていない状況がある。 ・きょうだい支援については、各家庭の状況や保護者の意向、きょうだい児本人の心理面への配慮など、非常に個別性が高くデリケートな領域であるため、事業所として一律の支援機会を設定することが難しい側面がある。	・保護者面談や相談機会の充実を図るとともに、保護者向け情報提供やきょうだい児への配慮についても、事業所として実施可能な支援の在り方を検討していく。
3	各種マニュアルの周知、苦情解決体制の周知、事故や怪我があった際の情報伝達	・各種マニュアルや苦情解決体制等については整備自体は行っているものの、保護者や職員への周知方法が十分に体系化されておらず、十分な理解や認知につなげにくい側面がある。	・各種マニュアルや苦情解決体制、事故発生時の対応等について、保護者への書面配布や掲示等を通して周知方法を整理し、理解しやすい形での情報提供を行う。